

## 先人顕彰シリーズの展示

ふるさとの豊かな文化の礎と、すぐれた先人の遺徳を偲ぶ…

- ◆第1次展示 H2.7-H3.6  
 瀬川 清子 (1895-1984) 女性民俗学の大家 (毛馬内)  
 山 万喜蔵 (1907-1957) 地域医療に貢献 (尾去沢)  
 小田島 樹人 (1885-1959) 気品に富んだ作曲家 (花 輪)  
 小関 直右衛門 (1873-1943) 鹿角の観光に新時代を築いた (八幡平)  
 阿部 藤助 (1886-1928) 郷土の興隆に生涯を捧げた (八幡平)
- ◆第2次展示 H3.7-H4.6  
 小田島 由義 (1845-1920) 郡長として殖産興業に尽くした (花 輪)  
 浅井 小魚 (1875-1947) 俳人・大湯環状列石発見者 (大 湯)  
 田村 徳治 (1886-1958) 日本行政学の創設者 (花 輪)  
 大里 武八郎 (1872-1972) 名著「鹿角方言考」の著者 (花 輪)  
 大渡 部 繁雄 (1886-1976) 地域農業の近代化を促進 (八幡平)
- ◆第3次展示 H4.7-H5.7  
 阿部 恭助 (1886-1928) 鉱山日記「阿津免草」の著者 (尾去沢)  
 立山 弟四郎 (1867-1937) 郷土の産業と教育に貢献 (毛馬内)  
 立川 村 富多 (1871-1955) 育英会を創立した司法大臣 (花 輪)  
 諏訪 竹富 (1883-1981) 地域産業文化の発展に貢献 (大 湯)
- ◆第4次展示 H5.8-H6.7  
 田中 北嶺 (1838-1918) 「戊辰戦役図絵」を描く (毛馬内)  
 阿坂 祐 祐 (1878-1969) 関東学院設立と教育に献身 (大 湯)  
 大里 周蔵 (1884-1965) 町政に尽力した文化医師 (花 輪)  
 栗山 文次郎 (1886-1965) かつの古代茜、紫根染の大家 (花 輪)  
 高杉 重右衛門 (1889-1964) 地方行政農事に寄与・歌人 (尾去沢)
- ◆第5次展示 H6.8-H7.9  
 浅利 佐助 (1844-1920) 醤油醸造業の基礎を築いた (花 輪)  
 宮城 佐次郎 (1881-1951) 教育と地方自治に貢献 (花 輪)  
 伊藤 良三 (1883-1964) 教育と町政に尽くす (毛馬内)  
 立 藤 林平 (1888-1918) 将来を嘱望された天才数学者 (毛馬内)  
 阿部 貞一 (1895-1950) 農村電化と観光事業の先覚者 (八幡平)
- ◆第6次展示 H7.10-H8.9  
 児玉 高慶 (1888-1929) 武道を奨励し青少年を指導 (花 輪)  
 柴田 春光 (1901-1935) 才能をうたわれた若き画家 (毛馬内)  
 阿部 六郎 (1893-1974) 郷土文化の向上に貢献 (花 輪)
- ◆第7次展示 H9.10-H10.9  
 内 武志 (1909-1980) 民俗学と菅江真澄の研究 (八幡平)  
 豊口 鋭太郎 (1873-1952) 秋田県教育振興に貢献 (毛馬内)  
 種市 豊山 (1882-1945) スケールの大きい気骨の書家 (毛馬内)
- ◆第8次展示 H11.11-H12.10  
 高橋 克三 (1888-1984) 湖南研究と地域先人の顕彰に尽力 (毛馬内)
- ◆第9次展示 H12.11-H13.11  
 黒沢 隆朝 (1895-1987) 音楽教育と音楽起源の研究 (花 輪)  
 大里 健治 (1898-1978) 音楽、郷土芸能の振興に寄与 (毛馬内)
- ◆第10次展示 H13.12-H14.11  
 石田 収蔵 (1879-1940) 北方民族研究の草分け (花 輪)
- ◆第11次展示 H14.12-H15.11  
 石川 伍一 (1866-1894) 国益に殉じた生涯 (毛馬内)
- ◆第12次展示 H15.12-H16.11  
 小松 五平 (1891-1972) 鳴子旧系こけしを継承した名工 (大 湯)  
 川村 薫 (1897-1976) 果樹指導と郷土新聞の草分け (花 輪)
- ◆第13次展示 H16.12-H17.11  
 相川 善一郎 (1893-1986) 彫塑・彫刻など文化活動に貢献 (花 輪)  
 馬淵 テフ子 (1911-1985) 空駆けた女流飛行家 (八幡平)
- ◆第14次展示 H17.12-H18.11  
 川口 月嶺 (1811-1871) 盛岡藩を代表する絵師 (花 輪)  
 泉澤 織太 (1777-1840)・牧太 (1778-1855)・恭助 (1806-1870) 学問のお師匠様泉澤家 (毛馬内)
- ◆第15次展示 H18.12-H19.11  
 佐藤 要之助 (1859-1892)・良太郎 (1878-1912) 鹿角りんごの礎を築いた父子 (花 輪)  
 佐藤 良雄 (1906-1977) カザルスのチェロを日本に広めた (花 輪)
- ◆第16次展示 H19.12-H20.11  
 小田島 艸子 (1882-1969) 花輪俳談会を創立 (花 輪)  
 鎌田 露山 (1891-1966) 毛馬内俳句会を設立 (毛馬内)

# 先人顕彰シリーズ⑬ 新しい文化を 築いた人たち

当先人顕彰館は、鹿角にゆかりの深い先人に関する

資料の発掘収集・保存、事跡の調査研究と公開展示をしております。

世界的な東洋史学者「内藤湖南」、

十和田湖の開発に尽力をした「和井内貞行」の

両氏をメインに常設展示し、

さらに各界の先覚者を順に展示紹介しております。

小田島 艸子  
 鎌田 露山



鹿角市先人顕彰館 TEL 0186-35-5250  
 〒018-5334 秋田県鹿角市十和田毛馬内字柏崎3番地2

## 鹿角俳壇を指導した 艸子と露山

### Sô Odashima

花輪俳談会を創立



### 小田島 艸子

おだしま そうう

1882-1969

本名は徳蔵、俳号艸子。父由義の意向により明治の教育者杉浦重剛の日本中学に学ぶ。日本画家梶田半古に入門し、画家を志す。同門に巨匠小林古径、前田青邨らがあり、特に古径とは終生親しかった。のち、弟樹人の影響で俳句を志し、渡辺水巴の「曲水」に初出句。増田手古奈の「十和田」、「馬酔木」、「ホトトギス」に出句し、「ホトトギス」で昭和8年初入選。

昭和7年「花輪俳談会」を創立し、鹿角俳壇の指導に当たる。句集「春水」には、滑稽風雅に遊ぶ俳風が示されている。

昭和33年、桜山公園に句碑「籬結わずただ春水をめぐらして」が建った。俳句一家で、兄弟に樹人、胡六、森女らがいる。

### 略歴 a brief personal record

- 明治15年(1882) 4月3日、後に鹿角郡長になる小田島由義・ハツの長男として花輪町に生まれる。
- 明治29年(1896) 父由義の意向により、14歳で東京の日本中学に入学。
- 明治35年(1902) 日本画家梶田半古に入門。明治37年、小林タネと結婚。
- 明治38年(1905) 一家で東京に転居し、翌年炭屋と本屋を開業。のち父由義は花輪町長就任の為帰郷。
- 大正7年(1918) 父由義病気につき帰郷し、柴平村役場などに勤務。昭和2年県立図書館花輪分館長。
- 昭和7年(1932) 「花輪俳談会」を創立。翌年「ホトトギス」に初入選。
- 昭和17年(1942) 同年より21年まで尾去沢町長。終戦後、毛馬内の鎌田露山に連句の指導を受ける。
- 昭和33年(1958) 桜山公園に「籬結わず」の句碑が建てられ、翌34年句集「春水」を刊行。
- 昭和44年(1969) 「ホトトギス」同人として長寿を全うし、5月7日に死去、享年87歳。

### Rozan Kamada

毛馬内俳句会を設立



### 鎌田 露山

かまだ ろざん

1891-1966

本名は倉蔵、俳号露山。若い頃、河東碧梧桐の自由律俳句に親しんだが、のち高浜虚子の「ホトトギス」系に転ずる。

40歳頃から十和田湖畔、子の口に住んで句作に精進し、増田手古奈の「十和田」に入会して投句を続ける一方、林大馬から連句も学ぶ。60歳を過ぎて毛馬内に帰郷してからは、地元の同好の士を集めて「毛馬内俳句会」を設立、小田島艸子の「花輪俳談会」とともに昭和30~40年代の鹿角俳壇全盛期を築く。

句風は素朴、堅実にして、写生道に徹するものであった。句集「みづうみ」に因む「みづうみ俳句会」が露山の俳風を継ぐ人たちによって今日も続けられている。

### 略歴 a brief personal record

- 明治24年(1891) 3月6日、安太郎・ナカの長男として毛馬内に生まれる。
- 明治36年(1903) 毛馬内小学校卒業後、岩手県福岡中学校に入学。その後中退して上京。
- 大正3年(1914) 菅原コトと結婚。昭和4年から十和田湖和井内ホテル支店で働く。
- 昭和15年(1940) 大鱈の増田手古奈の「十和田」へ投句を始める。23年林大馬に連句を師事。
- 昭和25年(1950) 毛馬内に帰郷。28年「毛馬内俳句会」を設立、会長に推される。
- 昭和31年(1956) 連句欄を持つ「かつらぎ」の同人となる。
- 昭和34年(1959) 10月錦木塚に句碑「旅人にはたおる虫や姫の塚」が建立される。
- 昭和35年(1960) 句集「みづうみ」を刊行する。41年10月21日死去、享年75歳。
- 昭和54年(1979) 毛馬内仁叟寺境内に句碑「山国の月に踊りのいつまでも」が建立される。